

事後評価対象課題一覧（2016年度終了課題）

革新的がん医療実用化研究事業

※2017年3月末時点の情報

開始年度	終了年度	研究開発代表者	機関名	研究開発課題名
<b>&lt;領域1&gt;がんの本態解明に関する研究</b>				
2014	2016	荒川 博文	国立がん研究センター	がんにおけるミトコンドリア品質管理機構の異常とその臨床的特性における意義に関する研究
2014	2016	鶴殿 平一郎	岡山大学	メトホルミンによる腫瘍局所免疫疲弊解除に基づく癌免疫治療研究
2014	2016	江成 政人	国立がん研究センター	p53経路が規定する難治がんの分子標的と治療抵抗性の解析
2014	2016	大畑 広和	国立がん研究センター	大腸がんの単一細胞レベルでの発現解析を通じた治療抵抗性獲得機構の解明
2014	2016	小川 修	京都大学	統合リポミクス・ゲノミクスを用いたホルモン感受性癌における革新的先制医療シーズの探索
2014	2016	加藤 護	国立がん研究センター	臨床検体の三次元的複層分子解析によるがん多様性創出機構の実証的解明とその克服に向けた臨床応用研究
2014	2016	加藤 護	国立がん研究センター	クリニカルシーケンスのための実用的なバイオインフォマティクスプログラムの開発および情報解析
2014	2016	金田 篤志	千葉大学	大腸癌層別化による発がん分子基盤の解明と配列特異的標的治療薬開発への応用
2014	2016	上條 岳彦	埼玉県立がんセンター	なぜ遺伝子変異なしでがんができるか：その分子基盤解明と標的探索
2014	2016	河野 隆志	国立がん研究センター	クリニカルシーケンスによる肺腺がんの治療標的・抵抗性克服分子の同定に関する研究
2014	2016	柴田 龍弘	国立がん研究センター	国際連携を基盤とした日本人難治固形がんゲノム統合解析による新たな治療標的の同定と予防戦略への展開研究
2014	2016	島田 和之	名古屋大学	悪性リンパ腫の腫瘍細胞と微小環境構成細胞の比較解析と微小環境構成細胞による腫瘍支持機構を標的とする新規治療法の開発
2014	2016	下田 和哉	宮崎大学	全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明
2014	2016	瀬戸 加大	久留米大学	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開
2014	2016	高橋 隆	名古屋大学	クリニカルプロテオミクス解析を基盤とする肺がんの分子病態の解明と革新的分子標的治療の開発
2014	2016	立川 正憲	東北大学	標的タンパク質絶対定量情報を基盤とする悪性脳腫瘍の分子標的療法に関する臨床的特性の分子基盤解明
2014	2016	土屋 輝一郎	東京医科歯科大学	スキルスがんにおける癌幹細胞悪性形質獲得機構に関する研究
2014	2016	西尾 和人	近畿大学	Liquid Biopsyによる分子標的薬の治療感受性・抵抗性の予測および新規獲得耐性機序の解明
2016	2016	林 真琴	神戸大学	骨肉腫の増悪化に関与するRor2チロシンキナーゼの基質を標的とした新規分子標的薬の開発
2014	2016	藤本 明洋	京都大学	Liquid Biopsy のゲノムシーケンス解析による癌の変異プロファイル
2016	2016	丸山 剛	北海道大学	細胞競合による変異細胞排除機構を応用した新規がん予防・治療薬の開発
2014	2016	山口 陽子	国立がん研究センター	希少がんである神経内分泌腫瘍の個別化医療開発に向けたがん抑制遺伝子 PHLDA3 の機能解析
<b>&lt;領域2&gt;がんの予防法や早期発見手法に関する研究</b>				
2014	2016	青木 大輔	慶應義塾大学	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究
2014	2016	石川 秀樹	京都府立医科大学	がん化学予防薬の実用化をめざした大規模臨床研究
2014	2016	岩崎 基	国立がん研究センター	前向き大規模コホート研究において既に収集されているがん罹患前試料・情報を用いた発がんリスク要因の探索と層別化に関する研究
2014	2016	榎本 隆之	新潟大学	HPVワクチンの有効性と安全性の評価のための大規模疫学研究
2014	2016	大内 憲明	東北大学	乳がん検診における超音波検査の有効性検証に関する研究
2014	2016	工藤 進英	昭和大学	対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験
2014	2016	河野 隆志	国立がん研究センター	肺腺がんの個別化・層別化・早期発見のための高危険度群捕捉手法の確立に関する研究
2014	2016	島津 太一	国立がん研究センター	胃がんにおける遺伝子変異・エピジェネティック異常と生活習慣などリスク要因との関連：前向きコホート研究
2014	2016	中里 雅光	宮崎大学	がん細胞が生成する尿中蛋白質断片の検出を応用した肺腺癌早期診断システム樹立に関する研究

事後評価対象課題一覧（2016年度終了課題）

革新的がん医療実用化研究事業

※2017年3月末時点の情報

開始年度	終了年度	研究開発代表者	機関名	研究開発課題名
2014	2016	華山 力成	金沢大学	高純度エクソソーム精製法による新規腫瘍マーカーの同定
2014	2016	本田 一文	国立がん研究センター	膵がん検診の効率化を目指した血液バイオマーカーの実用化研究
2014	2016	武藤 倫弘	国立がん研究センター	大腸がん超高危険度群におけるがんリスク低減手法の最適化に関する研究
2014	2016	吉田 輝彦	国立がん研究センター	ゲノム情報で規定される超高リスク群の診断と、層別化・個別化予防のためのエビデンス構築をめざした臨床観察研究
<b>&lt;領域3&gt;アンメットメディカルニーズに応える新規薬剤開発に関する研究</b>				
2014	2016	石川 義弘	横浜市立大学	口腔がんに対する磁性抗がん治療薬の実用化
2014	2016	牛島 俊和	国立がん研究センター	難治性神経芽腫に対する分化誘導療法併用下でのエピジェネティック治療開発
2014	2016	金田 安史	大阪大学	化学療法に対する抵抗性を克服することを目的とした希少がん(悪性胸膜中皮腫)治療薬開発のための医師主導治験の実施
2014	2016	後藤 功一	国立がん研究センター	希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究
2014	2016	谷口 博昭	東京大学	PRDM14を標的とする革新的核酸治療による難治性がん克服のための実用化に関する臨床研究
2014	2016	玉田 耕治	山口大学	がん認識抗体と遺伝子導入T細胞によるがん治療を目指した前臨床開発研究
2014	2016	土岐 祐一郎	大阪大学	グレリン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第2相試験
2014	2016	仲 哲治	医薬基盤・健康・栄養研究所	悪性胸膜中皮腫に対する新規治療法の開発及び実用化に関する研究
2014	2016	中面 哲也	国立がん研究センター	オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンのFIH医師主導治験
2016	2016	西村 勇哉	神戸大学	腫瘍特異的な低線量放射線治療を実現する無機/有機ハイブリッドナノ粒子の有効性評価
2014	2016	濱田 哲暢	国立がん研究センター	アンメットメディカルニーズにおける抗がん薬のPK/PDに基づく最適化医療の実施
2014	2016	益谷 美都子	長崎大学	難治性固形がんの有効なPARG阻害剤の実用化研究(新規PARG阻害剤の開発)
2014	2016	森 正樹	大阪大学	固形がん幹細胞を標的とした革新的治療法の開発に関する研究
<b>&lt;領域4&gt;患者に優しい新規医療技術開発に関する研究</b>				
2014	2016	秋元 哲夫	国立がん研究センター	更なる低侵襲化を目指した強度変調陽子線照射システムの技術開発
2014	2016	植田 幸嗣	がん研究会	癌細胞由来分泌小胞を標的とした膵癌早期診断バイオマーカー開発
2014	2016	牛島 俊和	国立がん研究センター	高精度エピゲノム胃がんリスク診断の確立と多層的食道がんリスク診断の開発
2014	2016	金子 周一	金沢大学	RNA測定による膵癌血液診断法の実用化研究
2014	2016	栗原 宏明	国立がん研究センター	がんの早期診断に資する新規のPET薬剤標識技術開発と普及に向けた自動合成装置の開発に関する研究
2014	2016	小嶋 基寛	国立がん研究センター	膵癌、胆道癌の検出と薬物治療効果予測を可能にする血清マイクロRNA検査の臨床導入
2014	2016	斎藤 豊	国立がん研究センター	消化管がんに対する特異的蛍光内視鏡の開発とその臨床応用に向けた研究
2014	2016	佐々木 良平	神戸大学	吸収性スパーサーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討
2014	2016	堤 康央	大阪大学	膜型G4.4Aを標的とした大腸がんに対する転移再発予測診断技術の開発
2014	2016	萩原 淳司	大阪市立大学	膵管内乳頭粘液腫瘍患者における超早期膵癌捕捉技術の開発
2014	2016	平岡 眞寛	京都大学	難治がんに対する動体追尾放射線治療の臨床評価に関する研究
2014	2016	藤原 俊義	岡山大学	蛍光ウイルス試薬を用いた進行胃癌患者の腹腔内浮遊がん細胞の生物学的悪性度評価に基づく早期再発症例の診断技術の開発
2014	2016	三澤 一成	愛知県がんセンター	消化器がん治療における医用画像処理技術を用いた統合的個別化手術支援システム開発と臨床応用
2014	2016	武藤 学	京都大学	難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究

事後評価対象課題一覧（2016年度終了課題）

革新的がん医療実用化研究事業

※2017年3月末時点の情報

開始年度	終了年度	研究開発代表者	機関名	研究開発課題名
2014	2016	森本 尚樹	関西医科大学	先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発
2014	2016	安永 正浩	国立がん研究センター	難治性がんの間質を標的にした分子イメージング法の開発
<b>&lt;領域5&gt; 新たな標準治療を創るための研究</b>				
2014	2016	荒井 保明	国立がん研究センター	最新のIVRIによる症状緩和についての研究
2014	2016	伊丹 純	国立がん研究センター	トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究
2014	2016	岩佐 悟	国立がん研究センター	切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究
2014	2016	岩瀬 哲	東京大学	がん患者の重大症状に対する緩和医療開発に関する多施設共同臨床研究
2014	2016	大橋 学	がん研究会	ステージⅢ胃癌に対する術前診断の妥当性研究：術前補助化学療法への転換を目指して
2014	2016	笠松 高弘	東京都立墨東病院	早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究
2014	2016	後藤 功一	国立がん研究センター	ALK融合遺伝子陽性のⅢ期非小細胞肺癌に対する集学的治療法の開発に関する研究
2014	2016	枝園 忠彦	岡山大学	Stage IV乳癌に対する標準治療の確立に関する研究
2014	2016	志田 大	国立がん研究センター	直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究
2014	2016	島田 和明	国立がん研究センター	外科手術手技の客観的評価と科学的根拠に基づいた標準治療開発のための多施設共同第三相無作為化試験の確立
2014	2016	清水 泰博	愛知県がんセンター	大腸がん肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究
2014	2016	田原 信	国立がん研究センター	進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究
2014	2016	田部 宏	慈恵大学	ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験
2014	2016	寺島 雅典	静岡県立静岡がんセンター	高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab 併用化学療法の意義に関する臨床試験
2014	2016	土岐 祐一郎	大阪大学	切除可能進行胃癌に対する網膜切除の意義に関する研究
2014	2016	中川 和彦	近畿大学	がん疼痛へのオピオイド使用に対するバイオマーカーを用いたランダム化比較試験
2014	2016	仁保 誠治	国立がん研究センター	局所進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン+S-1同時胸部放射線治療とシスプラチン+ペトレキセド同時胸部放射線治療の無作為化第Ⅱ相試験
2014	2016	野澤 桂子	国立がん研究センター	がん治療に伴う皮膚変化の評価方法と標準的ケアの確立に関する研究
2014	2016	増田 慎三	大阪医療センター	乳がん術後の適切なフォローアップに関する研究
2015	2016	水口 徹	札幌医科大学	進行膵臓がんを対象とした複合型CTLワクチン療法第2相試験
2016	2016	宮崎 安弘	大阪大学	胃癌術後補助化学療法コンプライアンス改善を狙った強化支持療法プログラムの開発
2014	2016	向井 博文	国立がん研究センター	乳癌に対する術前薬物療法における治療戦略研究
2014	2016	武藤 学	京都大学	これまで治療法がなかった食道癌術後の難治性吻合部狭窄に対する新しい治療法の開発
2014	2016	森田 信司	国立がん研究センター	患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験
2014	2016	山内 照夫	聖路加国際大学	がん治療による神経系合併症（認知機能障害と痛み）の緩和に関する研究
2014	2016	吉川 裕之	茨城県立中央病院	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
2014	2016	渡辺 俊一	国立がん研究センター	非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する標準的機能温存手術の確立に関する研究
<b>&lt;領域6&gt; ライフステージやがんの特性に着目した重点研究</b>				
2014	2016	浅村 尚生	慶應義塾大学	高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究
2014	2016	足立 壮一	京都大学	小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立

事後評価対象課題一覧（2016年度終了課題）

革新的がん医療実用化研究事業

※2017年3月末時点の情報

開始年度	終了年度	研究開発代表者	機関名	研究開発課題名
2014	2016	伊東 恭悟	久留米大学	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第三相臨床研究
2015	2016	石神 浩徳	東京大学	胃癌腹膜播種に対するタキサン腹腔内投与を用いた新規治療戦略の確立
2014	2016	石塚 賢治	鹿児島大学	成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験
2014	2016	今井 浩三	東京大学	新規バイオマーカーPRDM14による難治性乳がん・すい臓がんの診断法の開発
2014	2016	岩本 幸英	九州労災病院	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究
2014	2016	岡本 勇	九州大学	高齢者進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対する標準的化学療法の新規治療法の確立に関する研究
2014	2016	小川 淳	新潟県立がんセンター 新潟病院	再発小児・AYA(Adolescent and Young Adult)世代固形腫瘍に対する2剤併用化学療法についての多施設共同臨床研究
2014	2016	小川 誠司	京都大学	高齢者MDSにおけるクローン進化の経時的理解に基づく新たな治療戦略の構築
2014	2016	奥坂 拓志	国立がん研究センター	胆道がんに対する治療法の確立に関する研究
2014	2016	北林 一生	国立がん研究センター	変異型IDHを標的とした悪性脳腫瘍・肉腫・胆管がんに対する革新的治療法の開発
2014	2016	黒田 達夫	慶應義塾大学	Adolescent and young adult (AYA)世代に及ぶ骨・軟部肉腫ならびに固形がんに対する妊娠、晩期合併症に考慮した治療プロトコール開発に関する研究
2014	2016	近藤 格	国立がん研究センター	臨床検体を用いた多層的オミクス解析による分子標的薬の肉腫への適応拡大のための基盤的研究
2014	2016	真田 昌	名古屋医療センター	小児白血病におけるバイオマーカーによる早期診断技術の確立と実用化に関する研究
2014	2016	鈴木 茂伸	国立がん研究センター	眼部希少がんの発生・多様性獲得機構の「鍵となる」分子・分子経路の特定と、二次がん発生のサーベイランス体制の確立
2014	2016	千住 覚	熊本大学	iPS細胞ストックを基盤とする進行胃がんに対する免疫細胞療法の開発
2014	2016	高田 龍平	東京大学	化学物質誘発性胆管がんのリスク評価基盤:胆管がん発症機構の解明と関連バイオマーカーの探索
2014	2016	高橋 義行	名古屋大学	小児急性リンパ性白血病に対する非ウイルスベクターを用いたキメラ抗原受容体T細胞療法の開発
2014	2016	塚崎 邦弘	国立がん研究センター	臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発
2014	2016	中川 和彦	近畿大学	未治療原発不明癌に対する次世代シーケンスを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う第II相試験
2014	2016	中川原 章	佐賀県医療センター好生館	小児固形腫瘍とリプログラミングの破綻:発がん機構解明から臨床応用へ
2014	2016	中島 貴子	聖マリアンナ医科大学	高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法の新規治療法の確立に関する研究
2014	2016	中野 賢二	九州大学	人工核酸YB-1阻害アンチセンス:膵癌に対する新しい分子標的治療の開発
2014	2016	中山 敬一	九州大学	膵癌症例の術後転移再発抑制を目差した慢性肝炎治療薬3-オキシゲルミルプロピオン酸重合体を用いた臨床治験に関する研究
2014	2016	長島 文夫	杏林大学	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究
2014	2016	成田 善孝	国立がん研究センター	予後不良の神経膠腫に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究
2014	2016	西川 亮	埼玉医科大学	中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究
2014	2016	西村 恭昌	近畿大学	頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究
2014	2016	濱口 哲弥	国立がん研究センター	超高齢者社会における治療困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究
2014	2016	早川 文彦	名古屋大学	AYA世代における急性リンパ性白血病の生物学的特性と小児型治療法に関する研究
2014	2016	原 純一	大阪市民病院機構	小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発
2014	2016	檜山 英三	広島大学	難治性小児悪性固形腫瘍における診断バイオマーカーの同定と新規治療法の開発に関する研究
2014	2016	福田 隆浩	国立がん研究センター	成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究

事後評価対象課題一覧（2016年度終了課題）

革新的がん医療実用化研究事業

※2017年3月末時点の情報

開始年度	終了年度	研究開発代表者	機関名	研究開発課題名
2014	2016	古瀬 純司	杏林大学	切除不能膀胱癌に対する標準治療の確立に関する研究
2014	2016	細井 創	京都府立医科大学	ノン・ハイリスク群小児悪性固形腫瘍の安全性と治療後QOLの向上への新たな標準治療法開発のための多施設共同臨床研究
2014	2016	本間 明宏	北海道大学	進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究
2014	2016	真部 淳	聖路加国際大学	小児造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)に対する標準治療確立のための研究
2014	2016	丸山 大	国立がん研究センター	高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究
2014	2016	三木 義男	東京医科歯科大学	難治性乳癌のER非依存性病態の解明に基づく新規治療法の開発基盤研究
2014	2016	森実 千種	国立がん研究センター	消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究

※各領域内、五十音順